



報道資料

開館一周年記念特別展

# 大阪の日本画

Japanese Paintings of  
Modern  
Osaka

大 阪は商工業都市として発展を続けるとともに、東京や京都とは異なる文化圏を形成し、個性的で優れた芸術文化を育んできました。江戸時代からの流れをくむ近代大阪の美術は、町人文化に支えられ、伝統にとらわれない自由闊達な表現が多彩かつ大きく花開いたといえます。とりわけ大正から昭和前期にかけては画壇としての活動が隆盛を極め、<sup>きたのつねとみ</sup>北野恒富、<sup>しませいえん</sup>島成園、<sup>すがたて</sup>菅楯彦、<sup>ひこやのきょうそん</sup>矢野橋村など、多くの画家が個性豊かな作品を生み出しました。

本展は、明治から昭和に至る近代大阪の日本画に光をあて、50名を超える画家による約150点の作品を展示します。また、作品が生まれた背景にも目を向けることで、個々の作品の魅力や画壇のあり方をより深く知るとともに、今につながる大阪の街の文化を浮き彫りにします。

みどころ  
1

## 大阪の日本画、史上初の大規模展

本展の出品点数は約150点を予定。  
近代大阪の日本画が勢ぞろいする史上初の展覧会です。

みどころ  
2

## 北野恒富、島成園、菅楯彦…躍動する個性が集結

出品作家は約50名。人物画の北野恒富。女性画家活躍の道を拓いた島成園。大阪の文化をユーモラスに描いた菅楯彦。新しい南画を主導した矢野橋村など。大阪の街で育まれた個性が展示室を賑やかに彩ります。

みどころ  
3

## 大阪中之島美術館 開館後初の日本画展

2022年2月にオープンし、会期中1周年を迎える  
大阪中之島美術館で開催される初の日本画展です。  
大阪の新しいランドマークとなった美術館に、この地で育まれた珠玉の作品が再集結します。

いまみやえびす

今宮 戎 神社の十日戎、宝恵籠行列の一場面

<sup>きたのつねとみ</sup> 北野恒富 <sup>ほ え かご</sup> 「宝恵籠」

昭和6年(1931)頃 大阪府立中之島図書館



「悪魔派」とも呼ばれた  
北野恒富と  
その弟子たちによって  
花開いた大阪の「人物画」。  
画面全体から  
人物の内面にせまります。



近代化により消えゆく  
古き良き大阪の生活。  
菅橋彦が生み出した  
「浪速風俗画」は  
そんな庶民の文化を温かく  
ユーモラスに表現しました。



矢野橋村は  
江戸時代からの南画に  
近代的な感覚を取り入れ  
革新的な「新南画」を  
探求しました。

## 1 美しく描く —北野恒富とその門下

## 2 文化を描く —菅橋彦、生田花朝

## 3 革新を描く —矢野橋村と南画

# 大阪の日本画 6つのトピック

## 4 船場派 —大阪の四条派



京都生まれの「四条派」を  
あっさりスマートに描くのが  
大阪の「船場派」です。

## 5 文人画 —洗練された中国趣味



中国由来の  
文人画を好んで  
鑑賞した大阪の人々。  
各地から文人画家  
たちが集い  
優れた作品が  
生まれました。

## 6 新しい時代の風 —新派と女性画家



新聞社や出版社など  
大阪に集まる新しい産業。  
江戸時代からの風土が作った  
女性画家の大活躍。  
モダンな感性が息づく  
新しい日本画です。

展覧会名 開館1周年記念特別展 大阪の日本画  
Japanese Paintings of Modern Osaka

会期 2023年1月21日(土)～4月2日(日) [会期63日間]

※会期中、展示替えがあります。

休館日 月曜日(ただし3月20日は開館)

開場時間 10時～17時(入場は16時30分まで)

観覧料 一般 1,700円(前売・団体1,500円)

高大生 1,000円(前売・団体 800円)

- 小中生以下無料
- 税込み価格。団体は20名以上
- 障がい者手帳などをお持ちの方(介護者1名を含む)は当日料金の半額(要証明)。  
ご来館当日、2階のチケットカウンターにてお申し出ください
- 一般以外の料金でご利用される方は証明できるものを当日ご提示ください
- 本展は、大阪市内在住の65歳以上の方も一般料金が必要です
- 前売券は2022年12月1日～2023年1月20日まで販売

会場



大阪中之島美術館

NAKANOSHIMA MUSEUM OF ART, OSAKA

〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-1

電話 06-4301-7285(大阪市総合コールセンター・年中無休 8時～21時)

<https://nakka-art.jp>



主催 大阪中之島美術館、毎日新聞社、NHK大阪放送局

協賛 大和ハウス工業

助成 令和4年度地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業

巡回情報【東京会場】

東京ステーションギャラリー 2023年4月15日(土)～6月11日(日)

本リリースは大阪会場の内容であり、東京会場は開催概要や出品作品が変更になる可能性があります

プレス問い合わせ

「大阪の日本画」広報事務局(TMオフィス内)

担当 馬場、西坂、永井

電話 06-6231-4426

E-Mail [nihonga@tm-office.co.jp](mailto:nihonga@tm-office.co.jp)

〒541-0046 大阪市中央区平野町4-7-7 平野町イシカワビル





# 1 美しく描く

## —北野恒富とその門下

大阪の「人物画」は、明治時代後半から昭和初期にかけて、北野恒富とその弟子たちによって大きく花開きました。当時「悪魔派」と揶揄された妖艶かつ頹廢的な雰囲気をもつ恒富の人物表現は、顔を綺麗に描いた美人画とは異なり、人の内面を画面全体で描出している点に特徴があります。急激に移り行く近代社会の市井の感覚を敏感に感じ取り、描き方や人物の表情を制作時期によって変えている点も見どころです。また、恒富は画塾「白耀社」を主宰するなどし、樋口富麻呂や中村貞以、女性画家の島成園や木谷千種など大阪を代表する画家をはじめ、多くの後進を指導しました。彼らの活躍により多彩な人物画表現が大阪で生み出されることになります。

木枯らしに身をかがめて歩く女性は何を思う



きたの つねとみ  
北野恒富「風」

大正6年(1917) 広島県立美術館

醍醐の花見を楽しむ淀殿の凛とした姿



きたの つねとみ ご かくれい  
北野恒富「護花鈴」

大正前期 大阪中之島美術館



どろりとした表現の女性が見つめる先には

なかむらてい い しつだい  
中村貞以「失題」

大正10年(1921) 大阪中之島美術館

人物画の  
名手

北野恒富

KITANO Tsunetomi



1880-1947 石川県に生まれる。明治30年(1897)大阪に出て、新聞小説の挿絵などを手がける。文展や院展で活躍し大阪を代表する人物画の名手として名を馳せる。大正3年(1914)画塾「白耀社」を設立し多くの後進を育てる。「大阪美術会」、「大正美術会」など大阪の美術団体に参加し、大阪画壇の中心的存在として活躍した。

## 2 文化を描く

### —菅楯彦、生田花朝

古き良き大阪庶民の生活を温かく表現した「浪速風俗画」は、菅楯彦によって確立されました。伝統的な風俗や風景を題材に絵を描き自賛を書き入れ、四条派と文人画を融合させたスタイルは、江戸時代より続く大阪人独特の洗練された感性に響くものとして広く愛されました。弟子の生田花朝は、楯彦の作風を受け継ぐ一方で、豊かな色彩感覚により同時代の風俗も積極的に描き、軽やかでユーモラスな作品を多く残しました。



浪速風俗画  
を確立

菅 楯彦

SUGA Tatchiko



1878-1963 鳥取県に生まれる。大阪に移り、父に絵を学んだ後、国学、漢学などを学ぶ。古き良き大阪の風俗を軽妙洒脱に描き自賛を加えた作品は「楯彦風」と称された。日本三名妓とされた富田屋八千代と結婚し話題にもなった。

丁髷姿、古い商、古本売り。  
懐かしい宵の賑わい



すが たてひこ はん と よ ばし  
菅 楯彦「阪都四つ橋」

昭和21年(1946) 鳥取県立博物館

日本三大祭のひとつ天神祭の船渡御



いく た かん ちょう てんじんまつり  
生田花朝「天神祭」

大阪府立中之島図書館

活気に満ちた浜辺をパノラマで表現



いく た かん ちょう せんしゅうわき はま  
生田花朝「泉州脇の浜」

昭和11年(1936) 個人蔵

## 3 革新を描く

### —矢野橋村と南画

矢野橋村は、日本の風土に基づく日本南画をつくることを目標として、江戸時代より続く伝統的な文人画に近代的感觉を取り入れた革新的な「新南画」を積極的に推し進めました。もともと文人画や中国文化に対する素養のあった大阪では、新南画は容易に受け入れられたこともあり、近代大阪画壇において重要な足跡を残しました。

大阪美術  
学校を設立

矢野橋村

YANO Kyoson



1890-1965 愛媛県に生まれる。明治40年(1907)大阪に出て間もなく左手首切断の負傷を負い、右手一本で画業に専念することを決意する。南画家・永松春洋に師事し、大正3年(1914)文展初入選、《湖山清暁》で褒賞を受ける。大阪の美術と南画の発展に尽力し、「主潮社」、「日本南画院」、「大阪美術学校」などの設立・創立に携わった。

緻密に描いた迫力の大画面



落差のある滝を豪快に描く



や の きょうそん  
矢野橋村  
「那智奉拝」

昭和18年(1943)  
大阪市立美術館

や の てつざん  
矢野鉄山  
「孤琴涓潔」

昭和4年(1929)  
愛媛県美術館

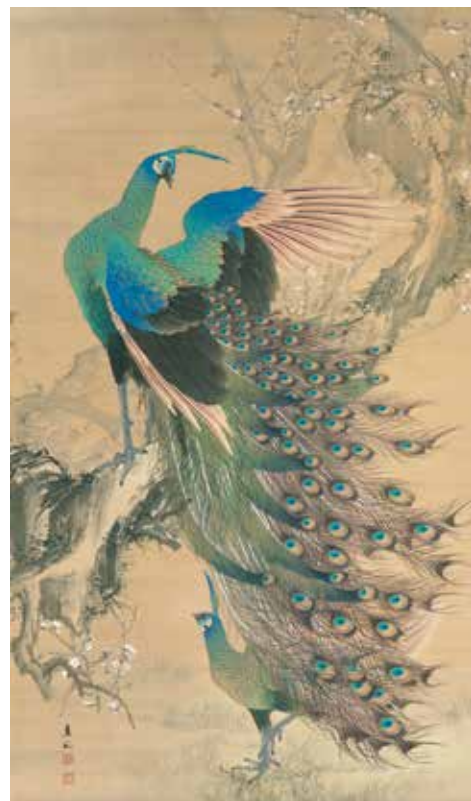


# 4 船場派

—大阪の四条派

大阪で広く市民に受け入れられたのが、四条派の流れをくむ絵画「船場派」です。船場派には2つの系譜がみられます。幕末・明治期に活躍した西山芳園・西山完瑛によって確立された西山派の系譜。もう一つは明治期に深田直城により普及した系譜。いずれも京都の四条派とは異なり、あっさりスマートに描く大阪らしい作風で人気を博しました。

セントルイス万国博覧会に出品し  
銀メダルを獲得



ひらい ちよくすい ばい か く じゃく ず  
平井直水「梅花孔雀図」  
明治37年(1904) 大阪中之島美術館



天保山での  
舟遊びは、  
夏の大阪の  
風物詩

にしやまかんえい  
西山完瑛  
「涼船図」  
文久元年(1861)  
個人蔵

# 5 文人画

—洗練された中国趣味

江戸時代、都への玄関口にあたる大阪には様々な文物が集まり、煎茶をはじめとする中国趣味が栄え文人画が流行しました。大阪では、漢詩や漢文の教養を身に付けた市民が多かったこともあり、明治以降も文人画人気が続き、西日本を中心に各地から文人画家が集まり優れた作品が多く生まれました。



俗世から離れ、  
静かな一人だけの世界

もり きんせき  
森 琴石  
「獨樂園図」  
明治17年(1884)  
西宮K氏コレクション

桃の花が咲き誇る、  
争いのない平和な理想郷



かわ べ せいらん  
河邊青蘭  
「武陵桃源図」  
明治41年(1908)  
大阪中之島美術館

松竹梅を  
文人たちは  
こう呼んだ

むら た こうこく  
村田香谷  
「歳寒三友  
山水図」  
明治30年(1897)  
個人蔵



# 6 新しい時代の風

## —新派と女性画家

明治時代以降、新聞社や出版社が多く集積した大阪には、全国から多くの画家たちが集まりました。彼らは挿絵画家などとして勤務する一方で、展覧会に出品したり研究会に参加したりして活動しました。また、大阪では江戸時代より女性画家が活躍していたことに加え、富裕層を中心に子女に教養として絵画を習わせる傾向が強く、多くの優れた女性画家が登場しました。様々な経歴で集まった人々や女性画家の活躍により、大阪の日本画は新しい感性に基づく魅力的な表現が生まれました。

約110年ぶりの大阪です



女性画家の先駆者



島 成園

SHIMA Seien

1892-1970 堺市に生まれる。明治38年(1905)頃大阪市に転居。15歳頃から兄・御風の仕事を手伝いながら独学で絵を学ぶ。大正元年(1912)、文展に《宗右衛門町の夕》が初入選し、大阪における女性画家の先駆者ともいえる存在となる。上村松園、池田蕉園とともに「三園」と称された。昭和2年(1927)の帝展出品以降、夫の転勤に伴い画業から遠ざかる。戦後は大阪に戻り制作を続けた。

みんなで仲良く、七夕まっりの飾りつけ



野田九浦「川狩二題」

大正6年(1917) 武蔵野市



島 成園

「祭りのよそおい」

大正2年(1913)

大阪中之島美術館

島成園が  
子供を描いた  
代表作

橋本花乃「七夕」

昭和5-6年(1930-31)頃

大阪中之島美術館



ショーウィンドウの洋服が気になります

吉岡美枝「店頭初夏」

昭和14年(1939) 大阪中之島美術館

吉岡美枝の先駆者



吉岡美枝

YOSHIOKA Mie

1911-1999 大阪市に生まれる。はじめ島成園に学び、のち中村貞以に師事する。大阪女性画家展や貞以塾の春泥会展などに作品を発表する。旧来の日本画にみられる伝統的な画題を描くのではなく、自身が暮らす時代にふさわしいモダンな雰囲気のある作品を得意とした。